Ｉｒｏｎｍａｎ　Ｗｏｒｌｄ　Ｃｈａｍｐｉｏｎｓｈｉｐ　７０．３

2012年9月6日　ＰＭ５：２５　ＪＡＬ　０６２便　ロサンゼルス行き。
私は、ラスベガスへ向かう機上の人でした。

頭の中は、2 月１９日に参戦したアイアンマンスリランカ 70.3 のレース。
偶然に偶然が重なり、私に信じられない事が起きたのです！
「Ironman World Championship 70.3 Las Vegas. 2012」のスロットを頂いたのです。
それは、私の実力を遥かに超えたものでした。
まさに夢？夢！の様でした。

続いて、9 日に参戦するレース。
8 月 19 日、練習中に落車し、肋骨 1 本骨折、後頭部 2 針縫合の結果、レースは無理でしょうと言われました。
でも、二度と手に入れられないと思うチャンスを逃したくありませんでした。

痛みで寝返りもうてず、鎮痛剤漬け、骨の治癒を早める一番の方法は安静と言われましたが、レースに行くためには欠勤は出来ません。
もちろん練習は出来ず 10 日で 3 Kg も太り、運動の力を実感しました。

受傷約２週間後、一番苦手なスイムに挑戦してみましたが、左手は痛みで伸ばすことも、お水をかくことも出来ません　。
レースは 1,9k、レースまで残りあと 8 日、絶望的でした。
DNS も考えました
でも、色々な方の励ましと、少しずつ回復する身体を信じ、私は悩みに悩んで、今出来ること！右手クロール、左手犬かき？で、とにかく泳げる所まで泳ごう！と、リタイア覚悟でスイムスタートを決心したのです。
そして、コルセットをすれば、バイクはどうにか乗れる！ランはぶっつけ本番！と本当に自分勝手で無謀な挑戦を決めたのです。離陸を待ちながら、今までのことを色々と思い出していました。

そんな日々を過ごしながら迎えた出発の日です。
ツアーはいつもお世話になっているグッドウィルツアー、総勢、約 40 名ほどでした。
スリランカで知り合い、今回一緒にラスベガスに行くことになったユカリンは私の怪我を知っていた為、色々と気を使ってくれました。同じレースに出る仲間に負担や迷惑をかけるようでは参戦の決心が間違いになってしまう、と反省しました。

＜一日目＞
ロサンゼルスまでの飛行機は函館トライアスロンクラブの方（の奥様）と話が弾み、長いフライトも楽しい時間でした。
ロサンゼルスに到着、暑い！陸送のためバイクをトラックに預け、それからラスベガスまではあっという間のフライトでした。
ラスベガスの空港にはスロットマシーンが並んでいて、ラスベガスに来た！という実感をわかせてくれました。

ホテルに行く前にコンビニ風のお店に寄り、
ミネラルウォーター、ビール、
カップラーメンなどを買い込みました。
日本食らしきものは全くありません。
いよいよ、チェックイン！

オフィシャルホテルなので説明会など
便利ですが、冷蔵庫の無いお部屋があり
驚きました。
運よく、ユカリンと私のお部屋には
キンキンに冷える冷蔵庫があり
ホッとしました。

買い出しした物で夕食を済ませ、
バイク到着を待ちましたが、
やはり時間通りには
到着しません。
待ちくたびれた頃やっと
トラックが到着、
急いで受け取りに行きました。
明日は登録やコースの下見があります。
急いでバイクを組み立てて、やっと、
そして、あっという間に一日が終りました。

＜二日目＞

快晴。
お部屋で朝食を済ませ、9 時からスイム、バイク、ランのそれぞれ一部分のコース下見をしながら、ヘンダーソン大会事務局に向かいました。
レース登録を済ませ、残った僅かな時間、エキスポでショッピングをしました。
沢山の出店がありましたが時間がなく、お目当てにしていたものは既に売り切れ、翌日ランギア預けでまた来るからと言われホテルに帰りましたが、残念がっている暇はありません。

この日はバイクメンテの日でした！
ホテルに帰ってすぐに着替え、バイクの試走です。

今回はホテルの一角で、レース参加者がご厚意でバイクメンテをして下さるとのことで、最終確認程度のことだけ。で、なければ、遠い大会事務局へ自分で持って行って下さいとのことでしたから、何かあったらそれからが大変です。
幸いなことに、大ごとは無く、DH バーの調整をして頂き終了となりました。
遅い昼食を、お部屋で済ませた頃はヘトヘトでした。
これから、明日預けるランギアの準備、バイクチェックインやバイクギアの準備です。
そして 18 時からは説明会を兼ねたカーボパーティーがあります。
もたもたしている暇はありませんでした。
明日の朝、試泳が出来るので、その準備もしました。
私にとって一番の難関のスイムです。
図々しくも、日本を出るときは泳げると言える状態ではありませんでした。
どれだけあばらが回復しているか、怖い気もあり、良くなっている期待もあり、
ドキドキでしたが試泳が待ち遠しい気がしました。

カーボパーティーの食事はまぁまぁでしたが、時間が長い上に、もちろん英語のみで
少し疲れましたが、発見がありました！選手の方たちの驚くほどの食欲です。
皆さん、本当によく食べます！隣の選手の食べたパスタの量は信じられませんでした。
強さの源？と思いながら観察しちゃいました。

さぁ〜明日は早起きして試泳です。
あっという間に二日目も終わってしまいました。

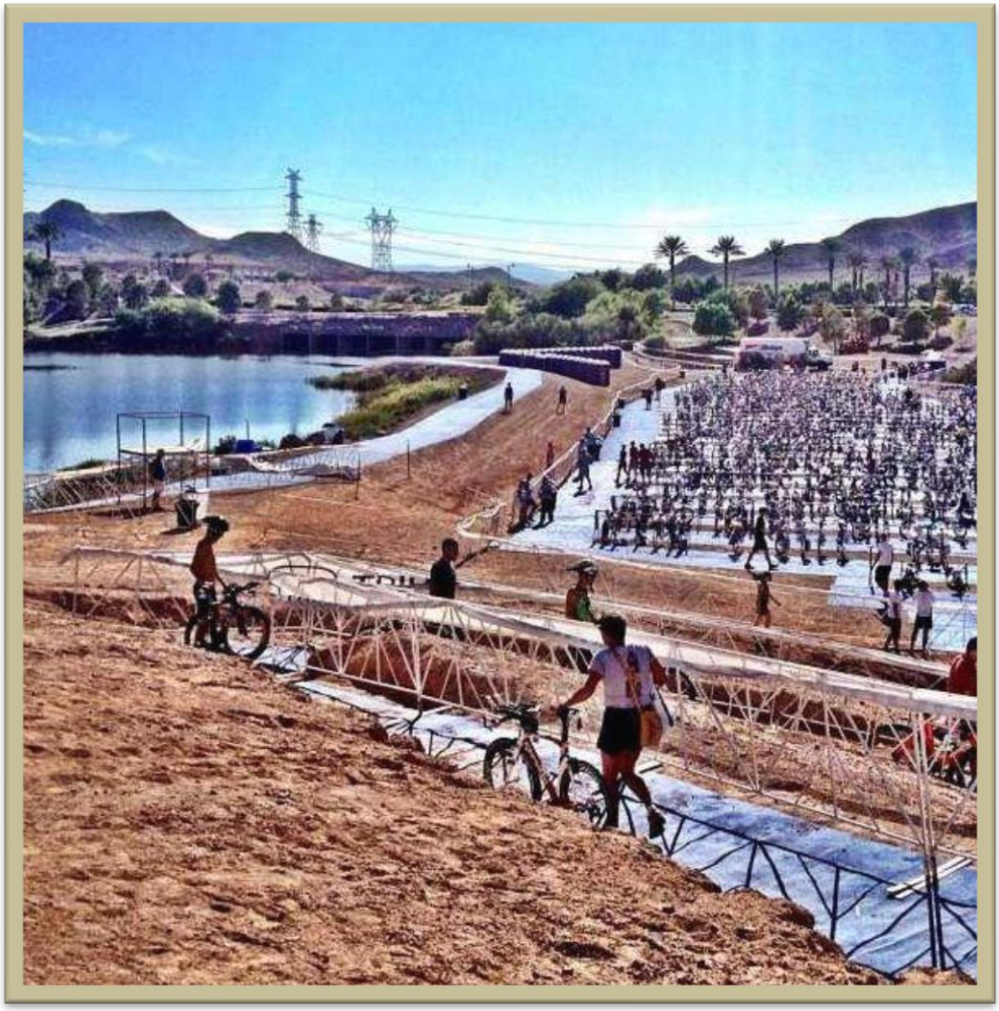
＜三日目＞

またまた、快晴。
早起きし、試泳に行きました。
徒歩で 20 分弱。
湖はかなり濁っていましたが、そんなこと考えている場合じゃありません。
レース当日の水着で、本番だと思って湖に入りました。
朝は涼しいとはいえ、えっ？冷たい！
冷たくても温かくても泳ぐしかありません。
一番近くに見えるブイを目指して泳ぎ始めましたが、痛みで左手が伸ばせません。
やはり、右手はクロール、左手は犬かき？で泳ぐしかないことがわかりました。
泳げば泳ぐほど痛みが増すので、ほどほどでやめました。
一緒に行った仲間は泳いでいるのに、寒さで鳥肌が立ち、唇の色が変わり、震えている自分が情けなくなりました。
帰ってきた仲間は寒さで震えている私を見て、それで本番はきついよ！寒いと痛みも増すから水着を二枚着たらどうだろう？とアイディアを出してくれました。
出来ることはしたい！と思い、ランギアを預けに行ったらまず水着を調達しようと決めました。

ラスベガスの景色を見ながら、今日これからの予定を話しながらホテルに帰り、お部屋で朝食です。
９時３０分に、ランギアを持ち、エキスポでのショッピング（まず、水着調達です！）と帰りはマーケットに寄って買い出し！と予定を組み、大会事務局行きのバスに乗りました。ランギア依託を済ませ、水着とエアボンベを購入、あとはエキスポでショッピングです。

もともと、レース前に欲しいものを買うとレース結果が悪いと、勝手なジンクスの持ち主でしたが、「完走できなかった。欲しいものも買えなかったじゃ、ラスベガスまで来た意味がないよ！買いたい物は全部買った方がいいよ！」と言われ、やっぱり心配かけている・・と申し訳なく思いました。
その時、心の中で、絶対に完走しよう！と、自分と約束し、そして心残りの無いようにショッピングをしました。

さて、ショッピングが終わりマーケットに買い出しに行くにはタクシーに乗らなくてはなりませんが、タクシー乗り場があるカジノホテルには着いたもののスロットマシーンだらけ、広過ぎて迷子になってしまいました。
ようやくタクシーに乗れたのは１時間ほど後でした。
タクシーに待っていてもらい、ダッシュで夕食などの買い出しをしてホテルに戻りました。
さあ、これからバイクチェックインです。

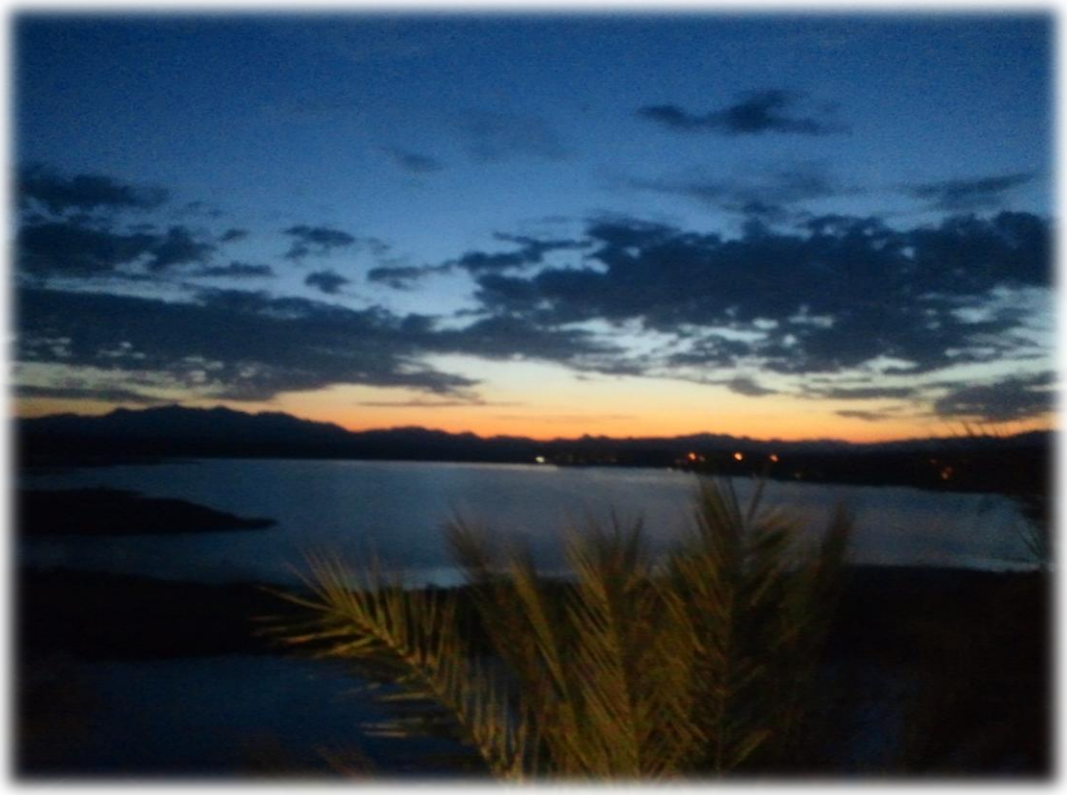


これが終わったら、あとはレースを待つだけです。

初めてで驚いたことは、ヘルメットの検査はなく、バイクの写真を撮ったことでした。
あとは、並んでいたバイクやホイールの凄さ！バイクをよく知らない私でさえ、見るからに強そう！と感じました。

ホテルにもどり水着の二枚重ねをしてみたのですが、頼りの綱の右腕が何故か重く感じてしまいます。
まともに動く右手にストレスがかかるのは絶対に困ります。
試着して買う場所も時間もなかったのですから仕方ありません。
買った水着はラスベガスの記念水着にすることに決め、明日は予定通り、準備してきた水着一枚で参戦することに決めました！
明日の準備をし、早めの夕食をとり、8時過ぎにはベッドに入りました。
でも、いつもと何かが違います。
眠れません・・眠ってはいるのでしょうが約1時間位ごとに目が覚めます。
考えないように、無理矢理、頭の中から追い出しているスイムのこと、それが原因だと分かっていました。
今更じたばたしてあれこれ考えて、なんて往生際の悪い小心者だと思いながら、寝ることに必死でした。
こんなに眠れないレース前の夜は初めてでした。

＜四日目～レース当日＞



晴れ？

起床 3 時。
外はまだ真っ暗です。
いつの間にか眠り、とても重い気持ちで目覚めました。
食事の準備をしながらも、気持ちが重くて仕方ありません。
理由は自分でよく分かっています。
昨日、完走すると自分と約束したのに・・・。
思い切ってユカリンに言いました。
「なんだかレースに出たくないの。スイムが怖いの。」私の揺れる気持ちを分かってくれていたのでしょう、黙って私の次の言葉を待っていてくれました。「強がっていたけれど、不安で一杯なの。でも本音を白状したらすっきりできた！ごめんね。」と、自分の弱い気持ちを胸に仕舞い切れず、今更、弱音を吐いたことを謝りました。
私が話し終えるのを待って「ラスベガスのレースは楽しむレースだよ。」と、ラスベガスが二回目のユカリンは笑って言ってくれました。

それから、朝食をたっぷり食べ、バイクに乗るつもりでおにぎりを作り（レース後、おにぎりが美味しくて完食したよ！とユカリンが言ってくれて嬉しかった！！）、バイクギアなどの荷物を持って、元気にホテルを出発しました。

生暖かい空気の中、タイヤに空気を入れ、バイクのセッテイング等をしていたら汗ばんできました。
バタバタしているうちにあっという間に時間が経ち、スイムスタートのウエーブ順に並ぶように言われました。
待っている間、人という文字を何度手の平に書き、飲んだことか・・・。
国家斉唱。
男子プロ、女子プロ、そして私は第３ウエーブ、４５＋の女子でした。
ウエーブは全部で１９もあり、５分おきにだんだん若い選手がスタートします。
いよいよ入水、神様のプレゼント！なんと昨日と打って変わって、湖が温かかったのです。
フローテイングスタート、もともと出来ないのだから今の状態で出来る訳がないし
ゆっくりスタートしたかったのでボードに掴まっていました。

すると、ボードのおじさんが「どこから来た？」と話しかけてくれたので「日本から！」、

そして、お守り！と思って「スイムはとても苦手だから、私をチェックして欲しい。」と伝わるかどうか分からない英語でお願いしました。
おじさんは「ＯＫ！」と笑って言ってくれました。

ト前、ボードから手を放すようにアナウンスがあり、半分、溺れながらスタートを待ちました。

スタートの合図があり、皆、凄い勢いで泳ぎ出しましたが、私は溺れながらの立ち泳ぎから解放された安堵で、ゆっくりと泳ぎ始めました。
1.9K の長旅の始まりです。

これをクリアしなければ、バイクに乗れません。ランも出来ません。
泳ぎだしたら弱気などどこかに吹き飛び、泳ぎ切ることしか頭にありませんでしたが、
本当に苦しい長旅になりました。

泳ぎ出しましたが、左手が思うように動かないのでなかなか進みませんし、鈍痛もありました。痛みは覚悟の上でしたから、我慢出来なくなったら休む、を繰り返して泳ぐことを決めていました。でも、一人で泳いでいるわけではありません。私の考えが甘かったことにすぐに気づかされることになりました。

私の次のウエーブの集団はあっという間にやってきました。
私は邪魔な障害物でしかなかったのでしょう、もみくちゃにされました。
最悪なことに、多分、平泳ぎをしていた方の肘か膝？の固い部分が私の修復中の左肋骨を直撃しました。
テレビで溺れているシーンを見たことがありますが、口からも鼻からも水が入り、水中でもがいている姿・・・私は痛みで呼吸が乱れ、水を飲み、パニックになり溺れている人そのものでした。
早く水面に出ないと、このまま溺れて・・・と本当に思いました。
やっと水面に顔を出しゴホゴホ咳き込みながら、後ろにいるボードに向かって（選手には逆行して）泳いでどうにか辿り着きました。
ボードのおじさんはまさか溺れたとは思わなかったのでしょう、「スイム！スイム！」と言いました。
私が肋骨を指して、蹴られて痛くて息が出来ないと言うと、ビックリした様子でボートを呼びながら、リタイアするか？と聞かれました。
休んでまた泳ぎたいと言うと、分かったと言いボートを返しました。
それから、ほかの選手の二倍以上の時間がかかった私のスイムの始まりです。

ウエーブが来たら巻き込まれないように離れる、痛みは我慢出来なくなる前に休む、どちらとも空を見てラッコ泳ぎです。
湖なので波は無いのですが、選手の泳ぎのもの凄い速さで大波が立ち、顔面はほとんど水をかぶりラッコ泳ぎもかなり苦しく、後半、痛みがどんどん増してきた時は、再度ボードで痛みが治まるのを待ちました。
何ウエーブに追い越されたかも分からないくらい、自分が安全に泳ぐことだけに必死でした。

そして、どうにかこうにか、やっとスイムゴールに辿り着きました！
もちろん、私と同じキャップの色は見当たりません。
私が泳ぎ終わった時、ボードのおじさんが傍に居るのが見え感謝の気持ちで手を振って、バイクに向かって走り出しました。が、どうしても気になり、振り返った私の目に映ったのは、まだ私を見て手を振ってくれているおじさんでした。
今、冷静に考えると、呆れていた？と思いますが、その時私は命の恩人とも言えるボードのおじさんに、大声で「Ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ！」と叫んでいました。

バイクラックにはたった一台、私のバイクが残っていました。
結果的にはスイムのカットオフが無かったためバイクに乗れたのですが、スタッフにバイクスタートしてよいですか？と聞いたら「ＯＫ」と言われたものの、自分でもスイムの制限タイムは過ぎているはず？という気がしていたので、本当？何故かな～？と思いながらスタートしました。
後で、間違いでしたと言われたら、それでいい！バイクに乗れる！絶景と聞いていた砂漠を走れる！ラッキー！今は何も考えず、バイクを楽しもう！という気持ちで・・・。
景色は最高、でもメチャクチャ暑い、そして広い、だらだらと長く続く坂道、一人旅。
暑さのため、エイドでは必ずお水を貰い、飲んで残りは頭からかける、その繰り返しです。
お腹も空き、念願のおにぎりを砂漠の真ん中で食べ、思いっきりバイクを楽しみました。
ウエアーの上からしっかりコルセットをしたので、ＤＨポジションでは痛みは感じませんが、左手は力をいれられず、痛くて立ちこぎは出来ないことがわかりました、左手はＤＨポジション、右手はブレーキをかけるためにハンドルを握る、という不自然な恰好で 90K をどうにか走りました！

いよいよ最後のラン、時間的にも最高に暑い中のランです。
でも、トランジットでランニングシューズに履き替えている私は喜びで一杯でした。
あとは根性で走るだけ！
ゴールに向かってひたすら走れば良い！と思うと、一歩一歩を頑張ることが出来ました。
途中でユカリンに会った時に「絶対にゴールして！」と言われ、ゴールが身近に思えて
元気が湧いてきました。
暑いのでエイドは充実していました。
エイドのボランティアの方はシャワーをかけてくれたり、背中に氷を入れてくれたりと
熱中症にならないようにサポートしてくれました。
ランの途中では、ツアーで知り合った方と何度かすれちがい、お互いを励まし合いました。
ランは 3 周回、最後の１周は辛いなんて感じません、まさかの完走を目前にして喜びを噛みしめながら走りました！

そして、ゴール！！

大きなメダルをかけてもらって、ドリンクを頂き、フィニッシャーズ T シャツとキャップを受け取り、チップを返却しました。
完走の実感がどんどん湧いてきました。
私にとってはまさか？の完走です！・・・大満足でした。

バイクやギアバックを受け取り、バスでホテルに戻りました。
ユカリンは既に戻っていて、私はドアを開けるなり「完走したよー！」と言い、ユカリンは「よく頑張ったねー！」と言いながら、抱き合って泣きました。
嬉しくて仕方がありませんでした。
シャワーは痛い身体を思い出させましたが、嬉しさやこれからの忙しさで忘れられました。

シャワーの後はバイク梱包です。
カーボパーティーと表彰式の前にやっと終わらせることが出来ました。
カーボパーティーは屋外で美味しく賑やかに、皆さん、完走したレースのことを話題に楽しく過ごしていました。
その後の表彰式では、同じエイジの優勝者の方に見惚れてしまいました。

表彰式が終り、今回一緒に行動させて頂いたユカリンの仲間、茨木の速い方達から
打ち上げのお誘いを受け、茨木の師匠（横鉄では隊長の立場の方）のお部屋で飲み会
をしました。
今回のレースの話はもちろんですが、日頃の練習などトライアスロンを話題に、とても
楽しい時間を過ごさせて頂きました。

＜五日目＞
快晴。
とうとう帰国の日です。
7 時にバスでホテルから空港へ向かいました。
窓から見える景色を目に焼き付けました。
写真も撮りました。
あと少しで沢山の思い出を作ったラスベガスとお別れです。
チェックイン時、バイク輸送運賃として＄１５０の支払いが必要となりました。
大きさ、重さに関係なく一律料金でした。
少しでも小さく、重量オーバーにならないように四苦八苦してバイク梱包する必要
はなかったのです。
バイクを預け、身軽になりスロットマシーンが並ぶラスベガス空港でチョコレートを
お土産に買いました。
わずかな時間しかなかったので、ラスベガスを発つという感傷にひたっている間は
ありませんでした。
ロサンゼルスに到着、ここで成田行きに乗り継ぎです。
時間はラスベガスよりもあったのですが、搭乗口まで隣の建物に移動するなど忙しく、
やはりあっという間に搭乗の時間になりました。

２０１２年9月１０日　PM１３：３０　ＪＡＬ　０６１便　成田行き。
沢山の素晴らしい仲間と思い出を作った私は、成田へ帰る機上の人でした。

頭の中は、ラスベガスで過ごした忘れられない日々のことで一杯でした。

＜レース結果＞

（Ｓ：1.2mil　/ Ｂ：56mil / Ｒ：13.1mil ）

８：０８：４７（Ｓ）０１：３２：５６（Ｂ）０３：５２：３６（Ｒ）０２：３３：４０
Ｆ５０－５４　４５位　　総合１６２３位

私にはまだまだ早かったレースでしたが、こんなに凄い方達と同じ時間を過ごせたことは素晴らしい経験になりました。
そして、誰かが言っている「世界の中での自分の位置を知る」ことができたこと、これは本当に大収穫でした。

レースが終わってから約 1 か月半経ちましたが、このレポートを書き始めるまでにかなり時間がかかりました。
レース直後は完走出来たことがただ嬉しかったのですが、冷静になった時、レース結果を直視することから逃げていたように思います。
が、私は今回の結果をしっかり受け止めて、この貴重な経験を正直にそして正確に残したいと思い書き始めました。
嬉しかったこと、楽しかったこと、情けなかったことや辛かったことを色々と思い出してラスベガスのレースを懐かしく感じています。

アドバイスを下さった方、大切な時間を応援に使って下さった方々に感謝致します。
有難うございました。

ジョイナー

www.timex.com
IRONMAN